

長期不妊治療患者のサポートについての検討
～家族について考える機会を通して～

小松原千暁¹、澤辺麻衣子¹、荻野友貴子¹、福田愛作¹、森本義晴²
医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック¹、医療法人三慧会 IVF なんばクリニック²

【目的】当院では長期不妊治療患者を対象とした会を行い、患者の孤独感の緩和や自尊心の向上を目指し支援している。今回「家族ってなあに？」をテーマに患者会を行い、その成果と今後の患者支援の方法について検討した。

【方法】長期不妊治療中で参加希望夫婦 5 組 10 名に「夫婦、夫と妻、家族、子ども、血縁、卵子提供、養子縁組」について事前アンケートを行い、その内容についてディスカッション形式の患者会を行った。また、実施後に会に参加した感想について匿名性を保持し倫理的配慮のうえ無記名でアンケートを実施した。

【結果と考察】アンケートの結果、夫婦について「一つの目標に向かって進むことができる関係」「お互いに信頼し支えあっていく存在」、家族について「相互に無償の愛を共有できる存在」「一番身近な存在、絆」、子どもについて「希望、なかなか叶わないもの」「夫婦だけでも家族ですが、子どもが増えたらより嬉しい」、血縁について「絆、繋がり」などの解答があった。会終了時の感想では「他の人の考えを聞く機会になったことが良かった」「不妊治療をしていく中で、考えなければいけないと思っていた内容だった」「夫婦で言葉にして伝え合い、共有できてよかった」などの意見があった。本会参加により、個人の家族観を改めて考えることで、夫婦であっても思想や価値観の違いがあることを認識し、お互いの意見を尊重したうえで夫婦間の家族観を再構築し、夫婦の絆をより深める機会となったと考える。

【結論】今後も定期的に患者会を開催し、患者から要望のある卵子提供や養子縁組などの情報提供も行い、様々な選択肢について考える機会を持つ支援も行っていきたい。また、参加者と継続して関わりを持つことで、安心して治療継続や中断、終結、卵子提供などの自己選択ができるよう支援していく必要性が示された。